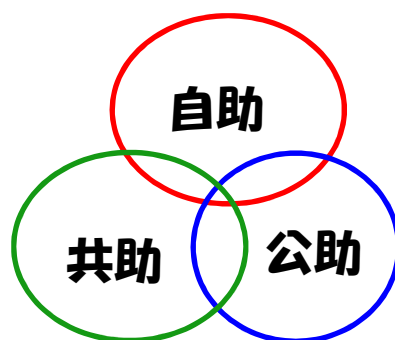


安城市校區別地震防災カルテ

学区：里町小学校区



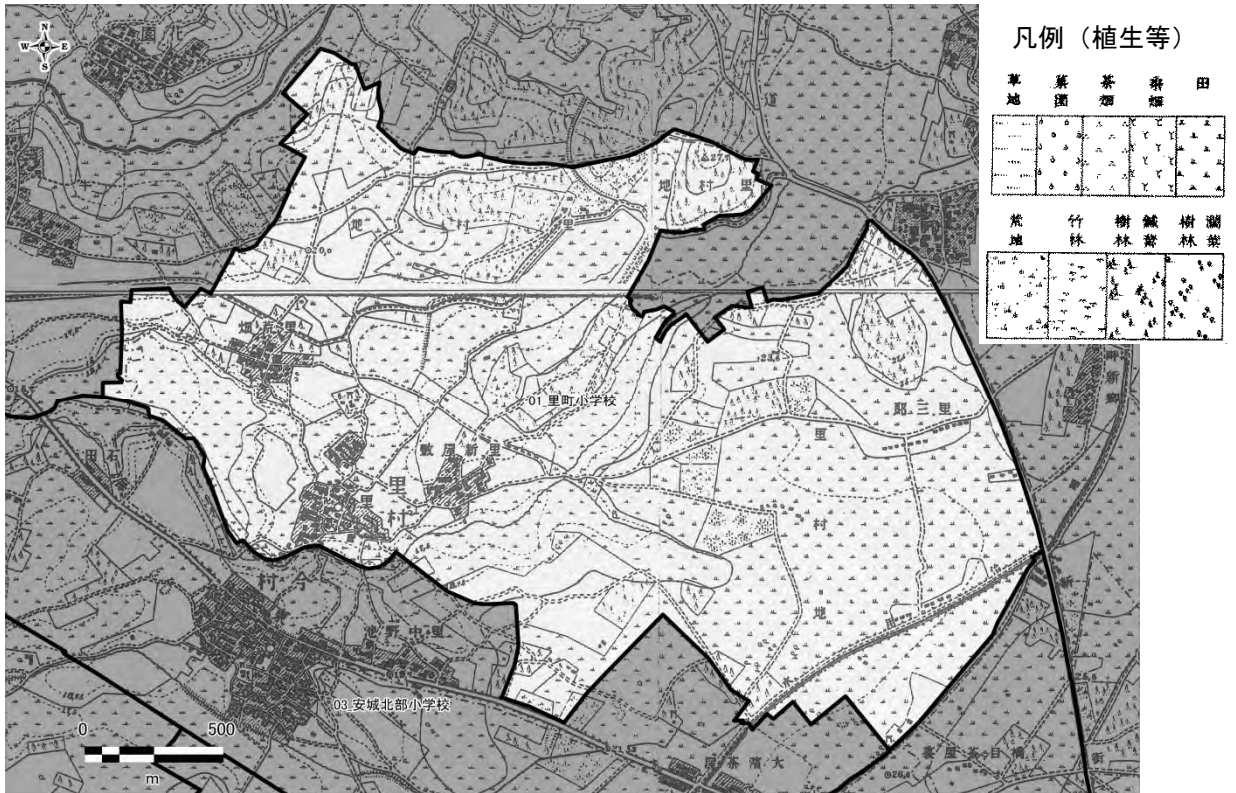
自分たちが住んでいる地区の状況や被害想定、防災施設を把握し、地震に強いまちづくりを進めていきましょう。

安城市

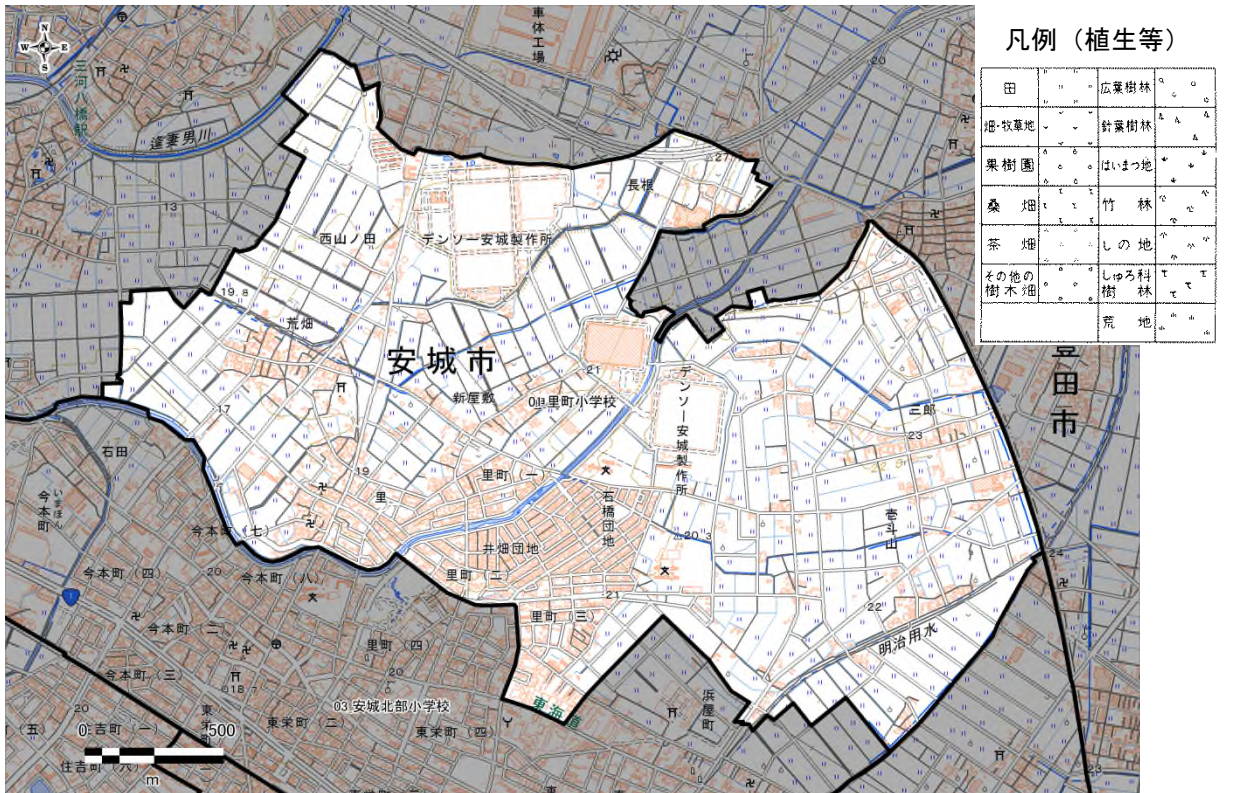
目 次

里町小学校区のおかしと今	1
1. 校区の位置図	2
2. 校区の構成	2
3. 校区の概要	2
4. 被害予測の結果（過去地震最大モデル）	4
5. 被害予測の結果（理論上最大想定モデル）	6
6. 防災関連施設	8
7. 避難所等一覧	8
8. 防災上の課題	9
9. 防災関連施設分布図	10

里町小学校区のおかしと今

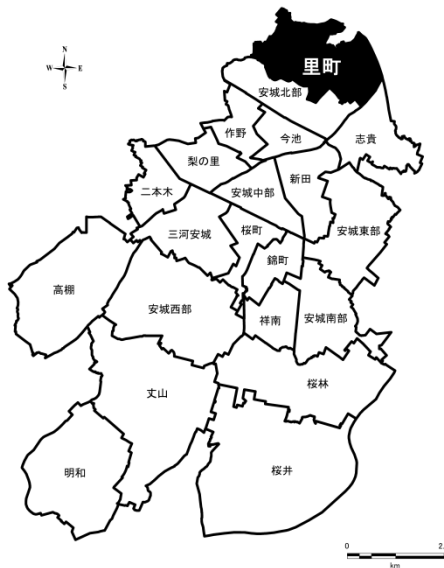


むかし（1890年（明治23年）ごろ）の校区付近の地形

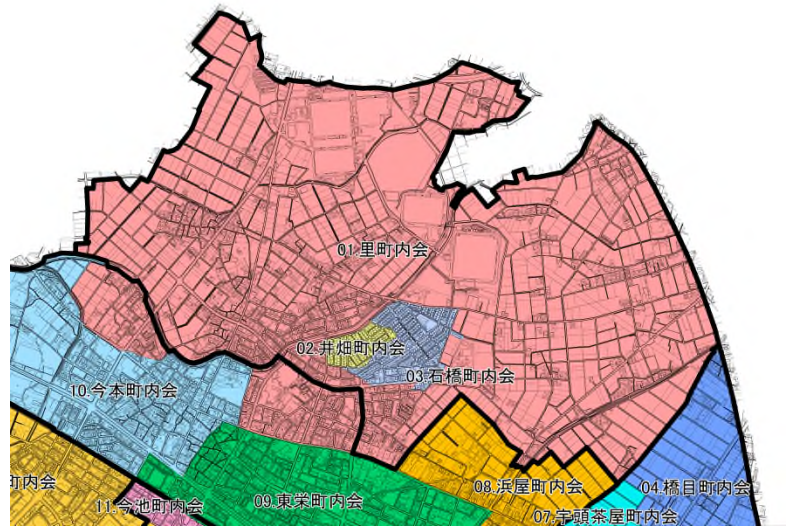


今の校区付近の地形

1. 校区の位置図



校区面積約 4.65km²
(安城市全体の 5.4%)



町内会区分図

2. 校区の構成

里町〔1丁目・2丁目・3丁目・阿賀多・荒畑・池ノ浦・池畔・石橋・壺斗山・今池・御地藏・御坊主・柿木島・上義信坊・川田・雁戸塚・北井畑・北歌口・愚通山・小藪・三郎・重原田・島ノ内・下義信坊・下田・菖蒲池・証文山・新林・新屋敷・足取・足取北側・足取中ノ切・大道畑・大道山・高縄手・高根・出崎・長根・七曲リ・西外面・西ノ口・西山ノ田・畑下・八幡・八幡山・東大道・日吉・東山ノ田・二夕股・本郷・前田・溝下・南井畑・南歌口・宮西・森・焼山・用手木・脇ノ田・早稻田・大道・東山〕

3. 校区の概要

【位置】里町小学校区は、市の北部に位置し、北側は豊田市、北西側は知立市との市境となっている。

【地形】校区内の大部分は台地上にあるが、校区内を西にむかって流下する猿渡川の周辺は谷底低地となっている。

【土地利用】校区の南西部に住宅が集中し、それ以外は全体に田畑が広がっているが、その中に大規模工場がいくつか立地している。

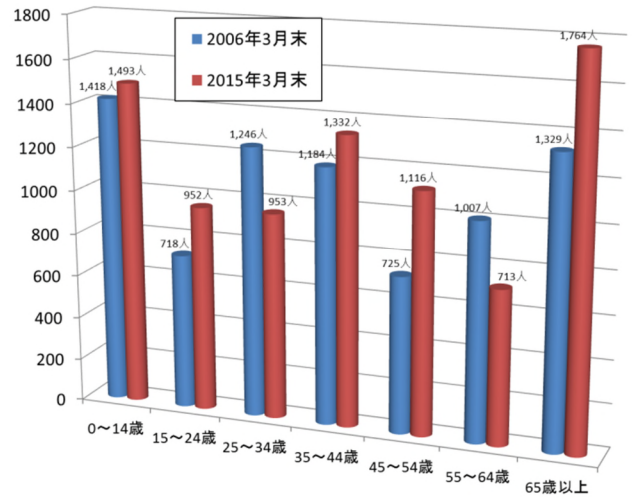
【交通】校区の西部を県道豊田一色線（12号線）が南北に通過し、東部を県道豊田安城線（76号線）が縦断している。校区の北部には伊勢湾岸自動車道が通っている。鉄道は通っていない。

【その他】町内会は、里町内会、井畑町内会、石橋町内会

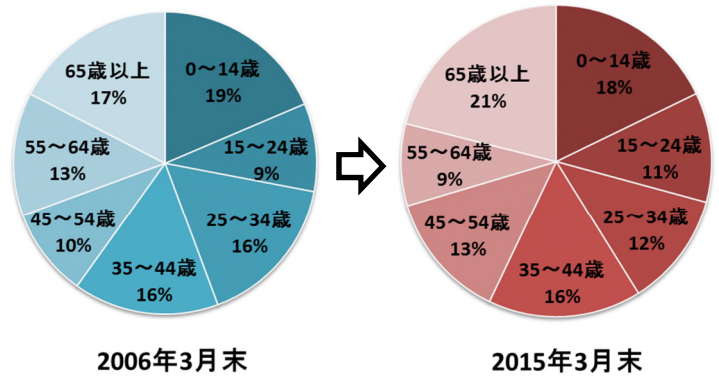
【人口等】(2006年3月末時と2015年3月末時の比較)

人口は増加している。ただし、65歳以上の高齢人口比率も増えている。

2006年3月末	人口	校区内での比率
0～14歳	1,418人	19%
15～24歳	718人	9%
25～34歳	1,246人	16%
35～44歳	1,184人	16%
45～54歳	725人	10%
55～64歳	1,007人	13%
65歳以上	1,329人	17%
人口(合計)	7,627人	100%
人口密度	1,640人/km ² (全市 2,013人/km ²)	
世帯数	2,516世帯 (対全市 4.2%)	

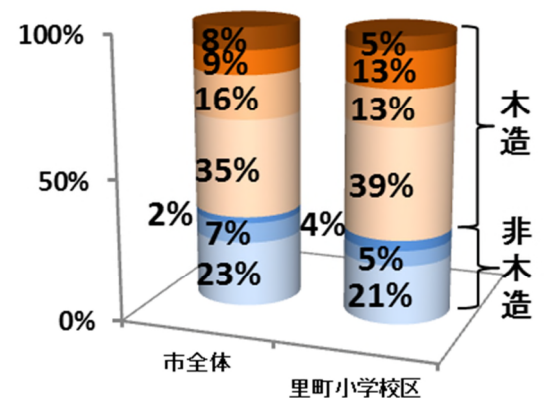


2015年3月末	人口	校区内での比率
0～14歳	1,493人	18%
15～24歳	952人	11%
25～34歳	953人	12%
35～44歳	1,332人	16%
45～54歳	1,116人	13%
55～64歳	713人	9%
65歳以上	1,764人	21%
人口(合計)	8,323人	100%
人口密度	1,790人/km ² (全市 2,151人/km ²)	
世帯数	2,849世帯 (対全市 4.1%)	



【建物棟数】(2011年12月)

	建物棟数(2011年12月)	校区内での比率
木造	昭和36年以前	154棟 5%
	昭和37～46年	398棟 13%
	昭和47～56年	410棟 13%
	昭和57年以後	1,225棟 39%
非木造	昭和46年以前	112棟 4%
	昭和47～56年	171棟 5%
	昭和57年以後	677棟 21%
建物棟数(合計)		3,147棟 100%
1km ² 当たりの建物棟数 (校区/全市)		校区: 677 / 全市: 699(棟/km ²)

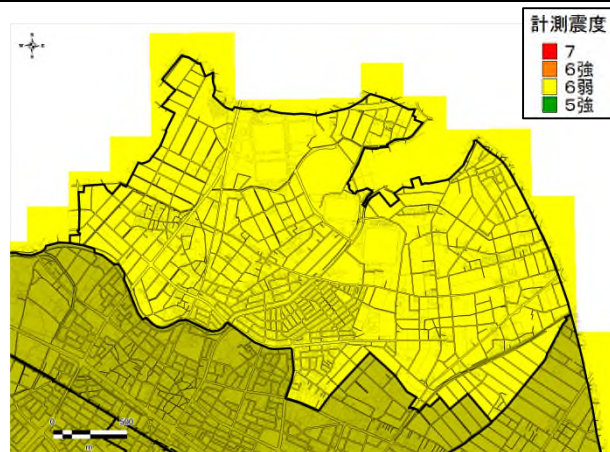


4. 被害予測の結果(過去地震最大モデル)

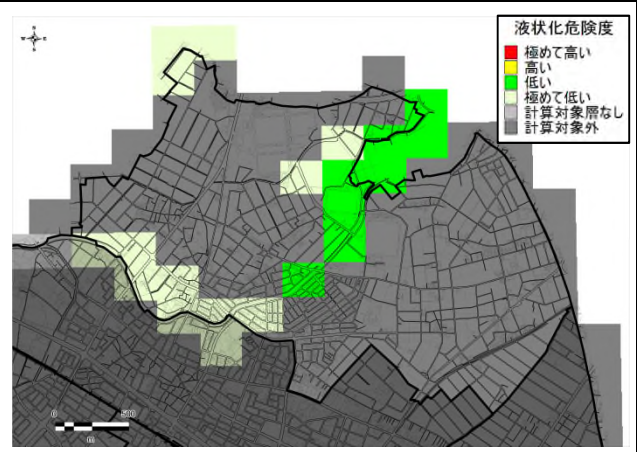
過去地震最大モデルとは：

- ・南海トラフで繰り返し発生している地震・津波のうち、発生したことが明らかで大きいもの(1707年「宝永地震」(M8.6)、1854年「安政東海地震」(M8.4)、1854年「安政南海地震」(M8.4)、1944年「昭和東南海地震」(M7.9)、1946年「昭和南海地震」(M8.0))を重ね合わせたモデル。
- ・本市の地震対策を検討する上で重要な想定とした。

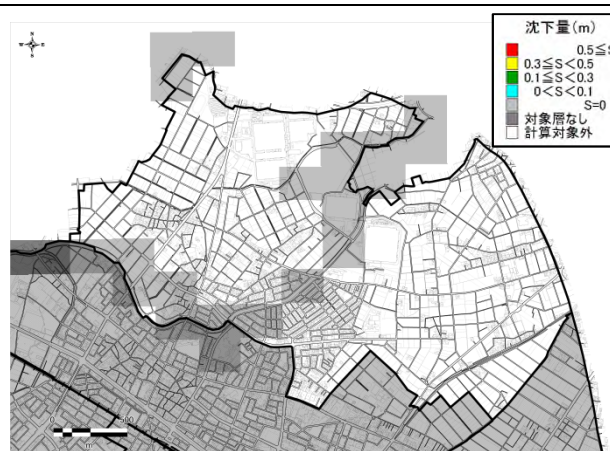
① 想定される地震動の強さ (250m メッシュ)



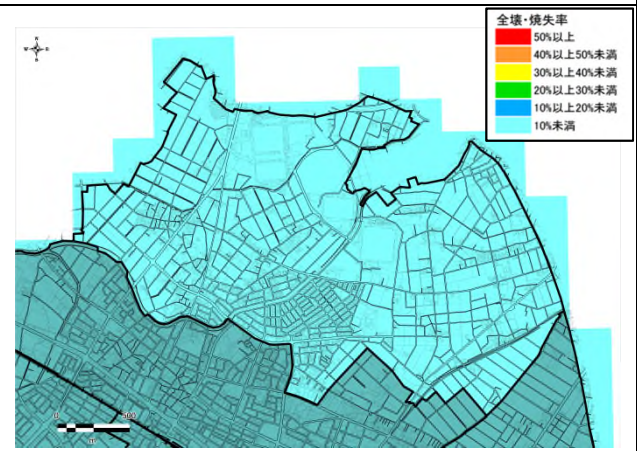
② 液状化の危険性 (250m メッシュ)



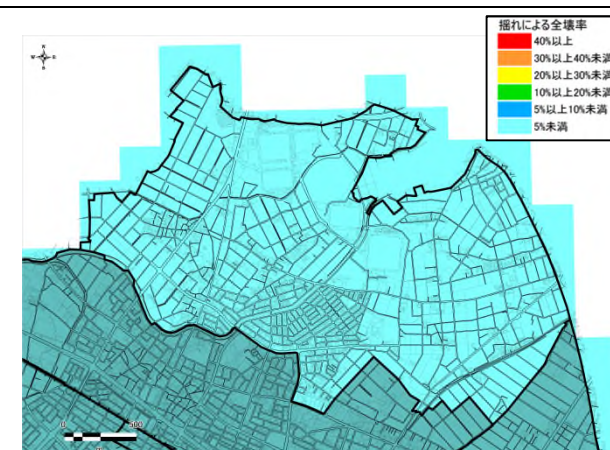
③ 地盤沈下量 (250m メッシュ)



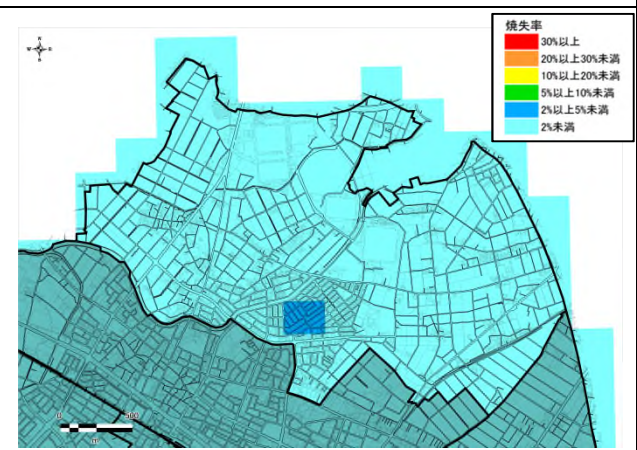
④ 全壊焼失率 (250m メッシュ)



⑤ 揺れ全壊率 (250m メッシュ)



⑥ 焼失率 (250m メッシュ)



4. 被害予測の結果(過去地震最大モデル)

里町小学校区は、震度6弱の揺れが想定されている。震度6弱は立っていることが困難になるほどの揺れであり、建物の耐震補強と家具の固定を進めることが大変重要である。液状化に関しては、区域の大部分が台地にあるため、猿渡川沿川で若干液状化の発生が心配される程度である。

<建物・人的被害の予測>

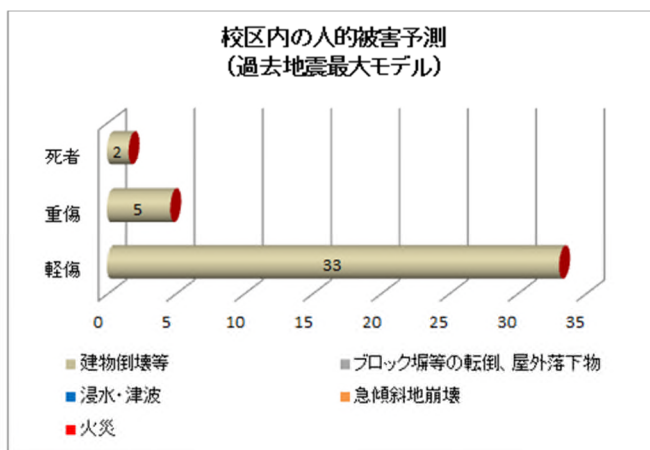
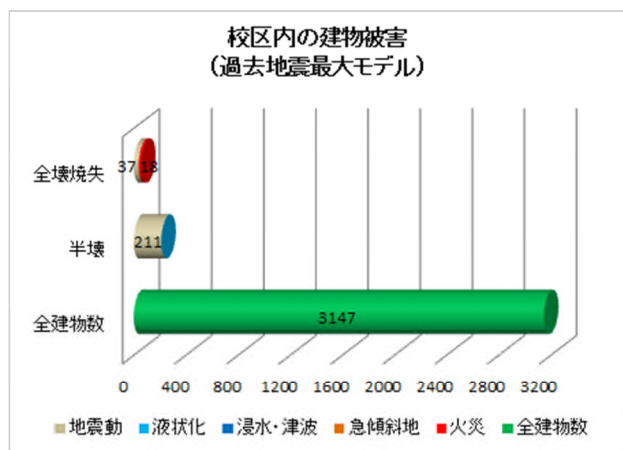
単位:(棟)

建物被害【冬・夕方発災】		
※()内は、校区の建物棟数3,147棟に対する割合		
	全壊・焼失	半壊
地震動	37	211
液状化	*	*
浸水・津波	0	0
急傾斜地	0	0
火災	18	—
建物被害総数	56(1.8%)	211(6.7%)

単位:(人)

人的被害【冬・深夜発災】			
※()内は、校区の深夜人口7,989人に対する割合			
	死者数	重傷者数	軽傷者数
建物倒壊等 (うち屋内転倒物・ 屋内落下物)	2	5	33
ブロック塀等の転倒、 屋外落下物	*	*	*
浸水・津波	0	0	0
急傾斜地崩壊	0	0	0
火災	*	*	*
被害者数合計	2(0.02%)	5(0.06%)	33(0.41%)

*: わずか



※四捨五入の関係で、合計が必ずしも一致しない場合があります

<ライフライン被害の予測>

ライフライン	被害	95%復旧するのに
上水道	被災直後、約9割が断水	約6週間
下水道	被災1日後、約7割が利用困難	約3週間
電力	被災直後、約9割が停電	約1週間
通信【固定電話】	被災直後、約9割が通話支障	約1週間
通信【携帯電話】	被災1日後、基地局の電波が停止する確率が、最大約8割	約1週間(基地局の復旧)
都市ガス	被災直後、0.3割が供給停止	約2週間
LPガス	被災直後、約1割が機能支障	約1週間

<避難者数の予測>

	1日後			1週間後			1ヶ月後		
	避難者数	避難所	避難所外	避難者数	避難所	避難所外	避難者数	避難所	避難所外
里町小学校区	255	153	102	1,102	551	551	255	76	178
市計	8,271	4,976	3,295	26,649	13,359	13,289	8,142	2,442	5,699

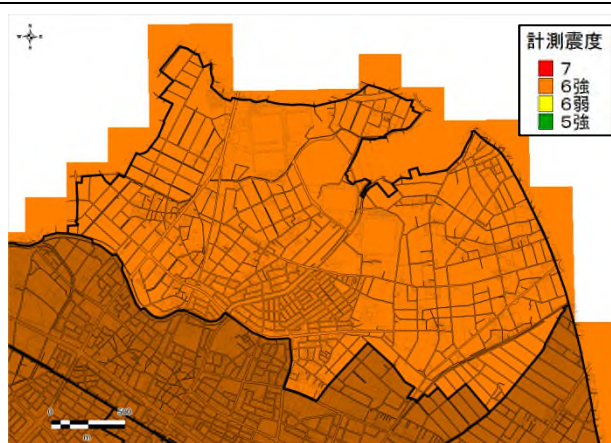
※四捨五入の関係で、合計が必ずしも一致しない場合があります

5. 被害予測の結果(理論上最大想定モデル)

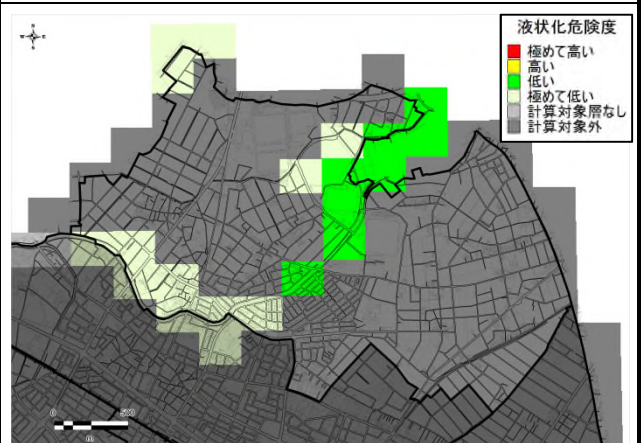
理論上最大想定モデルとは：

- ・南海トラフで発生する恐れのある地震・津波のうち、千年に一度、あるいはそれよりもっと発生頻度が低い地震。発生頻度は極めて低いが、発生すれば甚大な被害をもたらす、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震。
- ・「命を守る」という観点で想定外をなくすことを念頭に地震対策を講じることが不可欠であることから、あらゆる可能性を考慮して想定した最大クラスの地震・津波モデルとして設定。

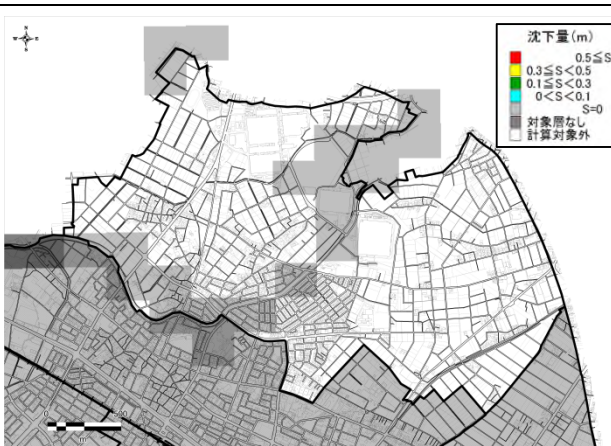
① 想定される地震動の強さ (250m メッシュ)



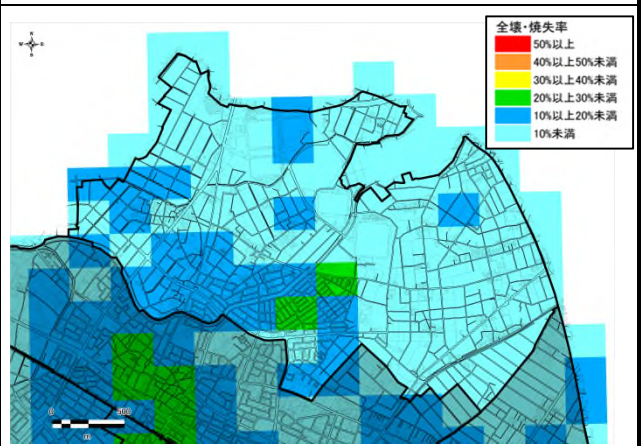
② 液状化の危険性 (250m メッシュ)



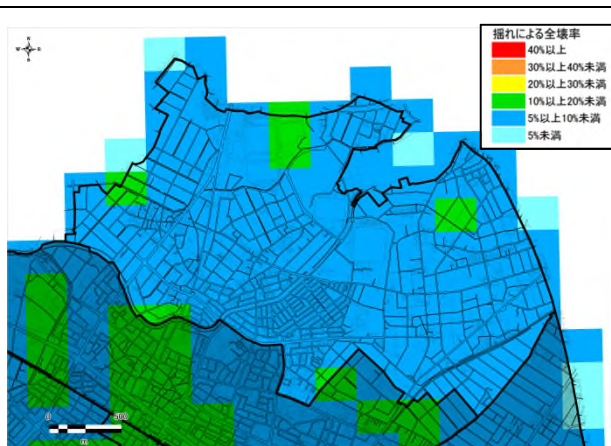
③ 地盤沈下量 (250m メッシュ)



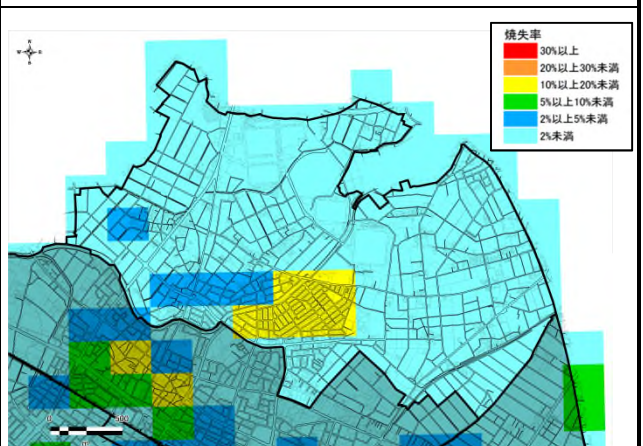
④ 全壊焼失率 (250m メッシュ)



⑤ 揺れ全壊率 (250m メッシュ)



⑥ 焼失率 (250m メッシュ)



5. 被害予測の結果(理論上最大想定モデル)

里町小学校区は、全域で震度 6 強の揺れが想定されている。震度 6 強は、はわないと動くことができないほどの非常に強い揺れであり、建物の耐震補強と家具の固定を進めることが大変重要である。
液状化に関しては、区域の大部分が台地にあるため、猿渡川沿川で若干液状化の発生が心配される程度である。

<建物・人的被害の予測>

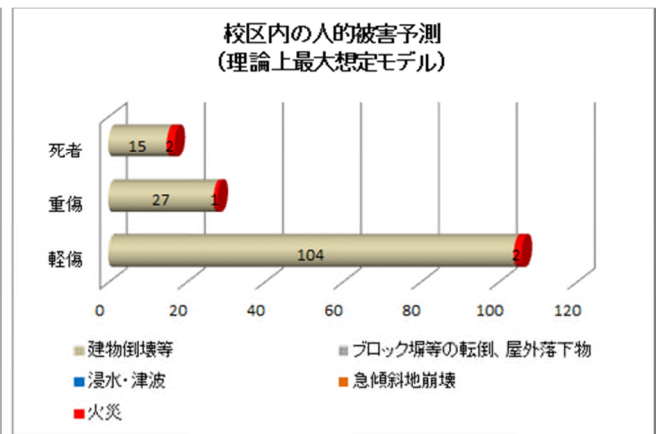
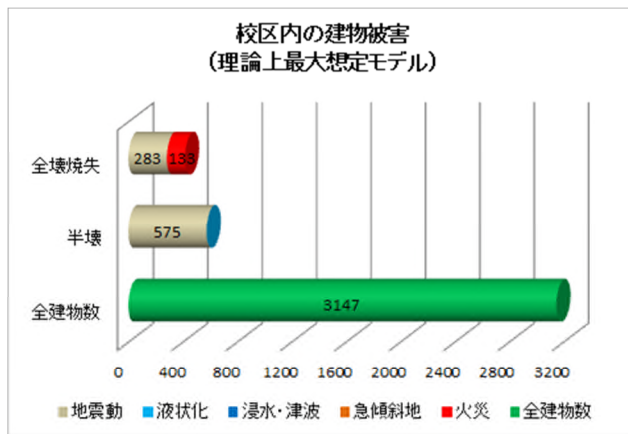
単位:(棟)

単位:(人)

建物被害【冬・夕方発災】		
※()内は、校区の建物棟数3,147棟に対する割合		
	全壊・焼失	半壊
地震動	283	575
液状化	*	*
浸水・津波	0	0
急傾斜地	0	0
火災	133	—
建物被害総数	416(13.2%)	575(18.3%)

人的被害【冬・深夜発災】			
※()内は、校区の深夜人口7,989人に対する割合			
	死者数	重傷者数	軽傷者数
建物倒壊等	15	27	104
(うち屋内転倒物・ 屋内落下物)	(1)	(6)	(29)
ブロック塀等の転倒、 屋外落下物	*	*	*
浸水・津波	0	0	0
急傾斜地崩壊	0	0	0
火災	2	1	2
被害者数合計	18(0.22%)	28(0.35%)	106(1.32%)

* : わずか



※四捨五入の関係で、合計が必ずしも一致しない場合があります

6. 防災関連施設

防災関連施設	名称
警察署	—
緊急時ヘリポート可能箇所	デンソー安城グラウンド
消防署	—
消防団	里町分団詰所
拠点病院・救急病院・災害医療救護所*	—
自主防災組織数	3
防災倉庫・防災資材庫	里町小学校、東山中学校
応急給水施設	里町小学校、東山中学校
井戸	1
マンホールトイレ	里町小学校
学校	里町小学校、東山中学校
保育園	—
幼稚園	—
公民館・福祉センター	—

※大規模災害時にのみ開設される救護所

7. 避難所等一覧

避難所	区分	施設名	電話番号	所在地	収容可能人員[名]
	避難所		里町小学校	98-5900	里町足取 1-5
		東山中学校	98-1351	里町東山 1	800
臨時避難所	区分	施設名	電話番号	所在地	収容可能人員[名]
	臨時*	株式会社デンソー 安城製作所	96-0101	里町長根 2-1	—
避難場所等	区分	名称		所在地	面積[m ²]
	一時	重原田公園		里町 1-29-9	2,000
		石橋公園		里町足取 3-86	1,800
		里町公園		里町 1-14-4	3,000
		里町小学校		里町足取 1-5	5,800
		東山中学校		里町東山 1	14,000

※市の依頼に基づき開設される臨時的な避難所

8. 防災上の課題

- 昭和 57 年以降に建てられた建物の多い地区ではあるが、被害想定では、全壊・焼失、半壊となる建物の割合は、過去地震最大モデルで約 9%、理論上最大想定モデルで約 32%となっている。また、人的被害においても、建物倒壊等による死者数、重傷者数が、過去地震最大モデルで 7 人、理論上最大想定モデルで 42 人となっている。建物被害や人的被害を減少させるためには、昭和 56 年以前に建築された建物の耐震診断や耐震改修により建物の耐震化を進める必要がある。
- 木造住宅の割合が多く、火災による建物被害では理論上最大想定モデルで全壊・焼失棟数が 133 棟となる想定が出ている。火災による建物被害を減らすためには、各家庭での消火器の準備等により火災を拡大させない対策が必要である。

**平成28年8月配布
安城市危機管理課**